



なんか返り討ちにおうたような気分です

この原稿が、みなさんのお目にとまるころは、大阪でG20サミット開催の余韻が、まだ残っていることと思います。各国のえらいさんが立ち寄った場所が、賑わっているかもしれない。

最近、大阪は外国人観光客が伸び続けています。二〇一七年には、初めて一〇〇〇万人を超えて一一一一人に。さらに二〇一八年は約一二〇〇万人と予想されています。

この数字を、少し前と比べると、ようわかります。例えば二〇一五年は七一六万人ですから、三年で五〇〇万人も増えた勘定になります。すごいですなあ。

今年、二〇一九年はサミット、ラグビーワールドカップ、二〇二〇年の東京オリンピックの流れでも、大阪に観光客は押し寄せるでしょう。

そして、トリは二〇二五年の万国博覧会。まさに外国人観光客はうなぎ登りです。

わからないもので、当初、お荷物と呼ばれていた関西空港がLCC、つまり格安航空会社でアジアの各地を結び、旅客数を伸ばしています。さらには官民一体となって、大阪は、京都や奈良に日帰りできる、会話が通じると利点を売り出してきました。

例えば、「大阪の胃袋」と言われてます黒門市場は、食品関係

の店が並んでいます。その店主であるおっちゃん、おばちゃんは英会話教室で英語を勉強しているというから、えらいもんです。

**シンガポールで無人飛行機を展示して
「まいどー」と大阪弁で人集めました**

もつとも、僕なんかシンガポールの展示会に行ったとき、それこそ「まいどー!」。「ここおもしろいですよ。無人飛行機展示してまっせ!」と全部、大阪弁でやって人集めましたけどね。

「それがガマの油売りと同じやないですか。何言ってるかようわからないけど、怖いもの見たさで人は寄りますからね」

おつ、出てきたな。東京のおっちゃん。

ちようどいい、せつかくやから、あんたにも少し言いたいことがある。

「な、何ですか。急に」

前から言うてますけど、僕は大阪を世界で脚光を浴びる街にしたいんです。

たまたま僕は、大阪に生まれ育ったから、大阪の中小企業を元気にさせることにこだわるけど、これは日本全国、共通することだと思います。村おこし町おこしに、みな苦労してます。それを担うのは中小企業やからね。



●(株)アオキ取締役会長
青木 豊彦 (あおき・とよひこ)



1945年大阪府生まれ。1997年(株)アオキは航空機メーカーのボーイング社の認定工場に。また東大阪の技術力を生かし、人工衛星「まいど1号」を開発、2009年に打ち上げ成功。その後無人垂直飛行機「AKITU」も開発に成功した。2014年4月、国立和歌山大学客員教授に就任。2016年には大阪市立大学学長特別顧問に就任。現在は(一財)ものづくり医療コンソーシアムの理事としても活躍中。

そやけど、東京だけは別ですな。

月一回ぐらい行くけど、まいど、めまぐるしく変わるのには驚きです。そしてコーヒー一杯一〇〇〇円以上も取るような店が、混雑してるのは驚きですなあ。東京の人は食事の替わりに、コーヒー飲んでますのやろか。

東京には、ほっといても人や金が流れ込みます。他の地方には、とても参考にはなりません。

私事ですが、今年で七四歳になります。

僕もそやけど、七十代はまだまだ元気な人が多いです。世の中の役に立つ過ごし方、ほんまに考えないといけないのと違うかな。

何でもいいから人に必要とされるような生き方しないといけません

東京のおっちゃんもそやで、僕をいちびつてばかりせんと、何でもいいから人に必要とされるような生き方しないと、いけませんで。

健康な人は、ほんまに世の中に貢献してほしいと思います。それは、一日二、三時間でも、週二、三日でもよろしい。

働き方改革で、一週間の労働時間は四〇時間と決められたそうです。

僕みたいな古い人間は、そんなんで大丈夫かなとも思うんですが、それはさておき、そんな労働時間というしほりやなくて、目標を持った人生を歩けば、すばらしいのやないかと思うんですが、どないでしょう。

会社辞めたら、まずゴ

ルフや旅行を楽しむ人が多いそうです。確かにそれもええでしょう。そやけど、それだけでええんですか？

年金世代が、目標を持って地域に貢献して、年

金をベースに、いくらかオンされるような仕事に就く。僕は身体動く間は、そうしたいと思っています。

「僕はええです」と東京のおっちゃん。

何がええねん？

「この前、バラ園行ったら、赤、白、黄色とさまざまなバラが咲き誇ってました。若い頃、バラの彩りなんて考えたこともなかったです。ウメもそうです。サクラもそうです。

今年、ジンダイアケボノというサクラの種類を初めて見ました。ソメイヨシノに替わる品種だそうです。ほんのり赤く可憐です。

そんな花々を愛でるのに、たいしたお金はいりません。せいぜい、公園の入園料や花見の酒代ぐらいですか。

気の置けない仲間と、季節の移ろいを感じつつ酒を酌む……。幸いもうそんなに飲めんようになりましたから、金もかかりません。

まあ青木さんは頑張ってください。応援します」
なんか振り返り討ちにおうたような気分です。

(撮影：氏野光子)



●黒門市場には英語で無料休憩所の知らせも